

(5) 製造間接費配賦基準テーブルの設定

■ 製造間接費の配賦の目的

製造間接費は“製品に直接紐づけることのできない”原価材です。しかし最終的に全ての原価材は「製品」に紐づけてはなりません。そこで製造間接費については「製品」に紐づけるため「配賦計算」という手続きを経て「製品」へ紐づけます。

■ 製造間接費の配賦の種類

製造間接費の「製品」への配賦は”部門別“に分解して配賦を行う方がより正確に原価を集計できます。

この製造間接費の配賦は以下の3段階で行われます。

(1) 部門共通費の配賦

部門共通費とは複数部門間に跨った製造費用をいいます。原価集計上はこの部門共通費を配賦手続きによって個別部門に分解する必要があります。

(2) 補助部門費の配賦

補助部門費とは製造部門を補助する部門で動力部・資材部・生産管理部等をいいます。部門個別費になった後に補助部門費として集計された部門個別費は、「製品」に紐づけるために「製品」とより結びつきの強い「製造部門」へ集めます。これが補助部門費の配賦です。

(3) 製造部門費の製品配賦

最後に「製造部門」に集まった製造間接費を製品へ配賦します。一般的に労務費と製造間接費は合わせて「加工費」と呼び、同じ扱いをします。従って製品への配賦は労務費と同一の基準を用いて行います(例. 労務費が作業時間で製品に割り当てていれば製造間接費も同じ作業時間で割り当てます)。

1. 勘定科目と部門

1) 部門を以下のタイプに分ける

(1) 原価部門

- ① 製造部門
- ② 製造補助部門
- ③ 工場管理部門

(2) 販管部門

- ① 販売部門
- ② 研究開発部門
- ③ 管理部門

2) 上記部門のタイプごとに使用できる費用科目を以下に特定する

(1) 原価部門

- | | |
|----------|--------|
| ① 製造部門 | 製造原価科目 |
| ② 製造補助部門 | 製造原価科目 |
| ③ 工場管理部門 | 製造原価科目 |

(2) 販管部門

- | | |
|----------|----------|
| ① 販売部門 | 製造原価科目以外 |
| ② 研究開発部門 | 製造原価科目以外 |
| ③ 管理部門 | 製造原価科目以外 |

※ 入力の中で上記の部門一科目の対応が崩れた場合は科目振替・修正を行ってから原価集計する

※ 部門の階層上販管部門と原価部門が混在する場合の共通費の配賦は上位部門の部門タイプのみ下位に配賦する

即ち上位: 原価部門 → 下位: 販管部門の場合、配賦は行われないことに注意

2. 共通費の配賦

1) 共通費の配賦とは上位部門から下位部門への配賦割合による分解である。共通費の分解に使う「配賦割合の算出方法」は様々であるが、計算された最終配賦割合を用いて分解する。

この分解の単位には以下の3つがある。

- ①科目単位 : 科目単位に配賦割合が異なる。
- ②原価要素単位 : 原価要素単位に配賦割合が異なる(科目単位には同じ)
- ③製造間接費として一括 : 製造間接費の配賦割合は科目・原価要素単位では同じ

2) 配賦割合の算出方法

配賦割合のには以下の2種類がある

- ①固定値割合 : 毎回当初設定した固定の一定割合値によって配賦する。
- ②変動値割合 : 毎回変動する一定の基準値により計算した割合を使用して配賦する。

3) 配賦割合の例

配賦割合の算出方法は様々である。一例をあげると下記のようなものが挙げられる。

①固定値割合

1)物量割合

- ・部門専有面積比
- ・部門人数比

2)金額割合

- ・部門予算比

②変動値割合

1)物量割合

- ・販売数
- ・生産数

2)金額割合

- ・売上高
- ・生産高

4) 予定配賦率と実際配賦率

配賦率を計算するタイミングを予算で行うか実績で行うかによって以下の2種類がある。

① 共通費予定配賦レート

② 共通費実際配賦レート

5) 共通費の配賦目的

共通費の配賦を行う目的は以下の2つある

① 製品別配賦を正確に行うため

② 予算管理を行うため

①の目的にとって共通費の部門別配賦が重要でないと判断される場合は、上位共通費のままで製造間接費の製品別計算を必死することができる。この場合製造間接費の配賦レートはこの上位部門の単位で一括でまとめられる。

従って部門別に設定レートがどういう状況だったのかを把握することは出来ない。

また②の目的にとっては配賦後の予算書を作成しておく必要がある。

3. 補助部門費の配賦

1) 補助部門費の配賦とは製造補助部門から製造部門への配賦割合による分解である。製造補助部門費の分解に使う「配賦割合の算出方法」は様々であるが、計算された最終配賦割合を用いて分解する。

この分解の単位も共通費の配賦同様下の3つがある

- ①科目単位 : 科目単位に配賦割合が異なる
- ②原価要素単位 : 原価要素単位に配賦割合が異なる(科目単位には同じ)
- ③製造間接費として一括 : 製造間接費の配賦割合は科目・原価要素単位では同じ
※共通費の配賦による単位と同じとなる

2) 配賦割合の算出方法

配賦割合のには以下の2種類がある

- ①固定値割合 : 毎回当初設定した固定の一定割合値によって配賦する
- ②変動値割合 : 毎回変動する一定の基準値により計算した割合を使用して配賦する

3) 配賦割合の例

配賦割合の算出方法は様々である。一例をあげると下記のようなものが挙げられる

①固定値割合

1) 物量割合

- ・対製造部門へのサービス提供割合
- ・提供製造部門の部門人数比

2) 金額割合

- ・製造部門直接費予算割合

②変動値割合

1) 物量割合

- ・製造部門へのサービス提供単位数
- ・生産数

2) 金額割合

- ・売上高
- ・生産高

4) 予定配賦率と実際配賦率

配賦率を計算するタイミングを予算で行うか実績で行うかによって以下の2種類がある。

①補助部門費予定配賦レート

②補助部門費実際配賦レート

5) 製造補助部門費の配賦目的

製造補助部門費は製造間接費の配賦の正確性のために行う。即ち製品との紐づきが弱い製造間接費をより強いであろう「製造部門」とより弱いであろう「製造補助部門」に分け、より弱い「製造補助部門」の製造間接費は

直接製品へ配賦するよりも「製造部門」へ配賦して「製造部門」から製品へ配賦する方が正確であるという仮定に基づく。従ってこの正確性の程度が会社にとって重要でない場合はこの配賦過程は省略することが可能である。

この場合の「製造補助部門」の製品への配賦方法は「製造部門」の配賦方法と同一である。

4. 製造間接費の製品への配賦

1) 製造部門へ集まった製造間接費の製品への配賦である。

この過程は省略できない。

この配賦の単位も共通費の配賦同様下の3つがある

- ①科目単位 : 科目単位に配賦割合が異なる
- ②原価要素単位 : 原価要素単位に配賦割合が異なる(科目単位には同じ)
- ③製造間接費として一括 : 製造間接費の配賦割合は科目・原価要素単位では同じ
※共通費及び製造補助部門費の配賦による単位と同じとなる

2) 配賦割合の算出方法

配賦割合のには以下の方法となる

①変動値割合 : 毎回変動する一定の基準値により計算した割合を使用して配賦する

3) 配賦割合の例

配賦割合の算出方法は様々である。一例をあげると下記のようなものが挙げられる

1) 物量割合

・製品別直接加工時間(作業時間／機械加工時間)

2) 金額割合

- ・製品別直接費割合
- ・製品別購入費割合

4) 予定配賦率と実際配賦率

配賦率を計算するタイミングを予算で行うか実績で行うかによって以下の2種類がある。

- ①製品配賦の予定配賦レート
- ②製品配賦の実際配賦レート

部門共通費の配賦

レベル1	配賦元		配賦先				
	部門名	部門CD区分	事業所CD	部門名	配賦率	根拠数値	根拠
本社共通	事業所CD	1100	1200	本社工場共通	100.00%	104	部門人数
				大阪工場共通	0.00%		部門人数

レベル2	配賦元		配賦先				
	経理部門名	部門CD区分	部CD	部門名	配賦率	根拠数値	根拠
本社工場共通	部CD	1110	1110	第2製造部	29.00%	29	部門人数
			1160	第3製造部	3.00%	3	
			1120	生産管理部	39.00%	39	部門人数
			1130	第1製造部	12.00%	12	部門人数
			1140	生産技術部	15.00%	15	部門人数
			1150	管理部	2.00%	2	部門人数

レベル3	配賦元		配賦元				
	部門名	部門CD区分	課CD	部門名	配賦率	根拠数値	根拠
第2製造部	課CD	1111	1111	第2製造課	100.00%	29	部門人数

レベル3	配賦元		配賦元				
	部門名	部門CD区分	課CD	部門名	配賦率	根拠数値	根拠
生産管理部	課CD	1121	1121	品質保証課	31.58%	12	部門人数
			1122	生産管理課	7.89%	3	部門人数
			1123	検査・梱包課	60.53%	23	部門人数

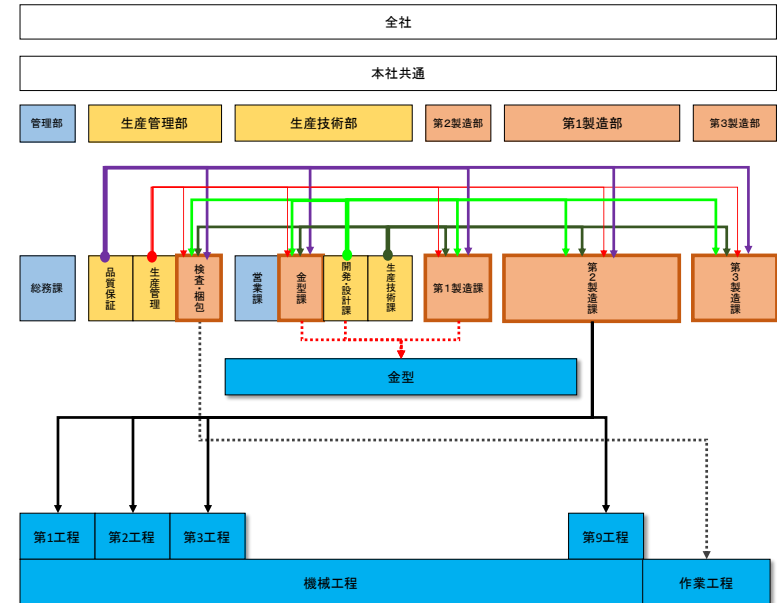
レベル3	配賦元		配賦元				
	部門名	部門CD区分	課CD	部門名	配賦率	根拠数値	根拠
第1製造部	課CD	1131	1131	第1製造課	100.00%	12	部門人数

レベル3	配賦元		配賦元				
	経理部門名	部門CD区分	課CD	部門名	配賦率	根拠数値	根拠
生産技術部	課CD	1141	1141	営業課	26.67%	4	部門人数
			1142	金型課	13.33%	2	部門人数
			1143	開発・設計課	40.00%	6	部門人数
			1144	生産技術課	20.00%	3	部門人数

レベル3	配賦元		配賦元				
	部門名	部門CD区分	課CD	部門名	配賦率	根拠数値	根拠
管理部	課CD	1151	1151	総務課	100.00%	2	部門人数

補助部門費の配賦

部門M	部門別計算
本支店	共通費の配賦 補助部門費の配賦
事業所	
部	
課	
部署	(製品・別配賦)



ここがポイント！！

製造間接費の配賦方法はいくつも存在しますが、理解のし易さ、メンテナンスビリティを考慮すると以下の方法が望ましいと言えます。

- (1) 部門共通費の配賦 : 配賦先部門人数等の固定的割合による配賦(固定単一基準配賦法)
- (2) 補助部門費の配賦 : 配賦先製造部門人数等の固定割合による配賦(固定単一基準／直接配賦法)
- (3) 製造部門費の製品配賦 : 労務費と同じ作業時間(機械工程であれば機械時間)による配賦